



KIRIN

よろこびがつなぐ世界へ
Joy brings us together

キリンググループ 2025年12月期 第2四半期決算

2025年8月7日

資本市場との対話を通じて企業価値を高める

地政学リスクやAIの劇的な進化などで、今後、
キリングroupを取り巻く事業環境の変化のスピードは
グローバルで加速度的に早まる

その中で持続的に企業価値を高めるためには、
資本市場の声を経営に生かしていくことが
より一層、重要かつ不可欠となっていく

上半期において資本市場の関心が特に高かった事項



ヘルスサイエンス事業の成長規模と確度は？



酒類事業は今後も主要な収益源か？



医薬事業の保有意義・割合の考え方は？



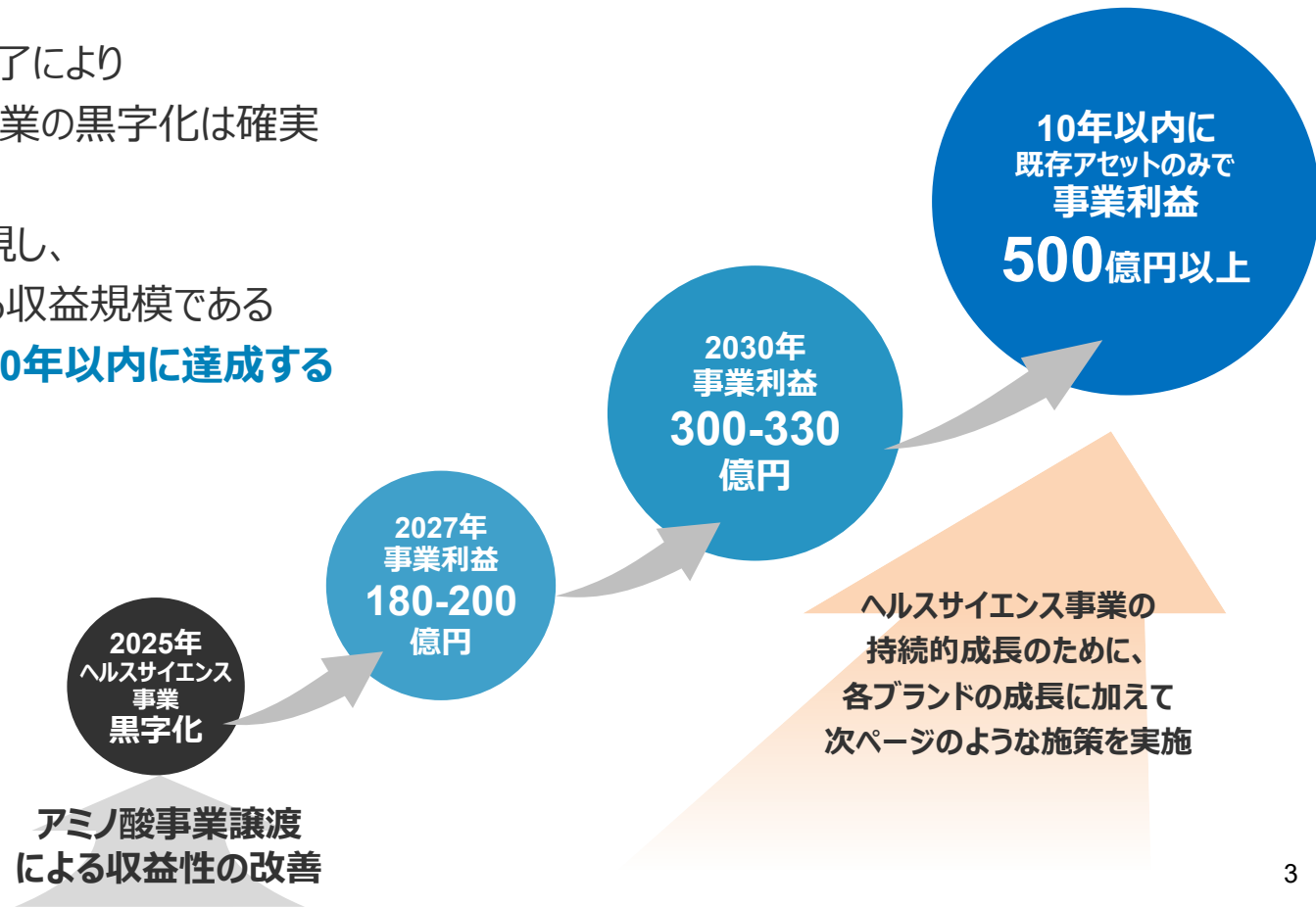
今後の事業ポートフォリオに変化は？



自己株式取得の実施の可能性は？

アミノ酸事業の早期譲渡完了により
本年度のヘルスサイエンス事業の黒字化は確実

今後は持続的な成長を実現し、
グループの中で存在感がある収益規模である
事業利益500億円以上を10年以内に達成する



収益拡大のための施策（コスト最適化）

➤ コストの最適化とトップラインの成長のための施策を次々と実行することにより、収益の成長スピードを上げていく



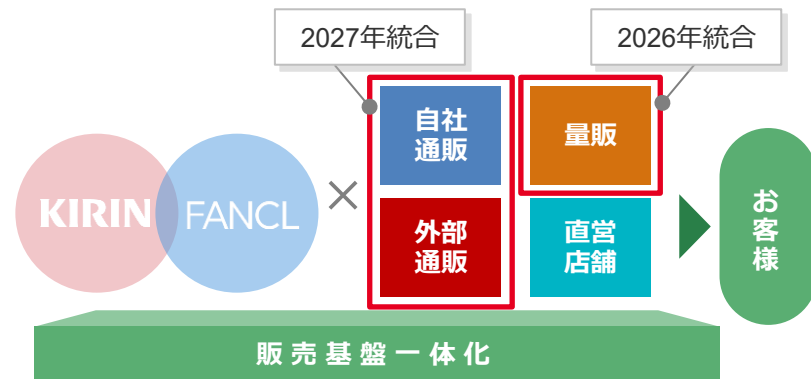
豪州のサプライチェーン変革



- 製造ラインをメルボルンに集約し、物流を外部化するなどサプライチェーンを効率化
- これによりお客様ニーズにさらに柔軟に対応できる体制を整備
- 2028年からコスト削減に寄与



FANCLとKIRINの国内事業基盤統合



- 販売基盤について、2026年に量販を、2027年に通販を統合
- FANCLのシステムとノウハウを活用したCRM強化により、KIRINサプリメントの飛躍的成長を実現
- 将来的に2ブランドの成長に伴うコスト増の最適化が可能

自社拠点	As Is	To Be
製剤ライン	メルボルン	メルボルン
パッケージングライン	シドニー	メルボルンの 自社工場内に移管
物流倉庫	シドニー郊外	メルボルン近郊にて 外部委託

➤ コストの最適化とトップラインの成長のための施策を次々と実行することにより、収益の成長スピードを上げていく



スキンケアとサプリメントの両事業を、成長率の高い海外市場で着実に伸ばしていく



スキンケア事業

- FANCLの製品を、成長が見込める東南アジア・中国を中心に海外展開
- ブランドは国ごとに最適なブランドを選択する
- Blackmoresの事業基盤を活用



サプリメント事業

- 各国でのブランド強化・展開拡大
- 以下の掛け合わせで成長を実現
 - ◆ 単価アップ
 - ◆ 既存国の新チャネルに進出
 - ◆ 新しい国への参入
- グループのアセットを活用して高マージンの新商品を次々と上市
 - ◆ キリンの研究開発力による素材の活用（プラズマ乳酸菌、シチコリンなど）
 - ◆ AIを活用した新商品開発
 - ◆ 規制対応力や販路

内外アプローチを
店頭やECで訴求

新たな商品・
サービスを開発

APAC市場の高い成長率

プラズマ乳酸菌

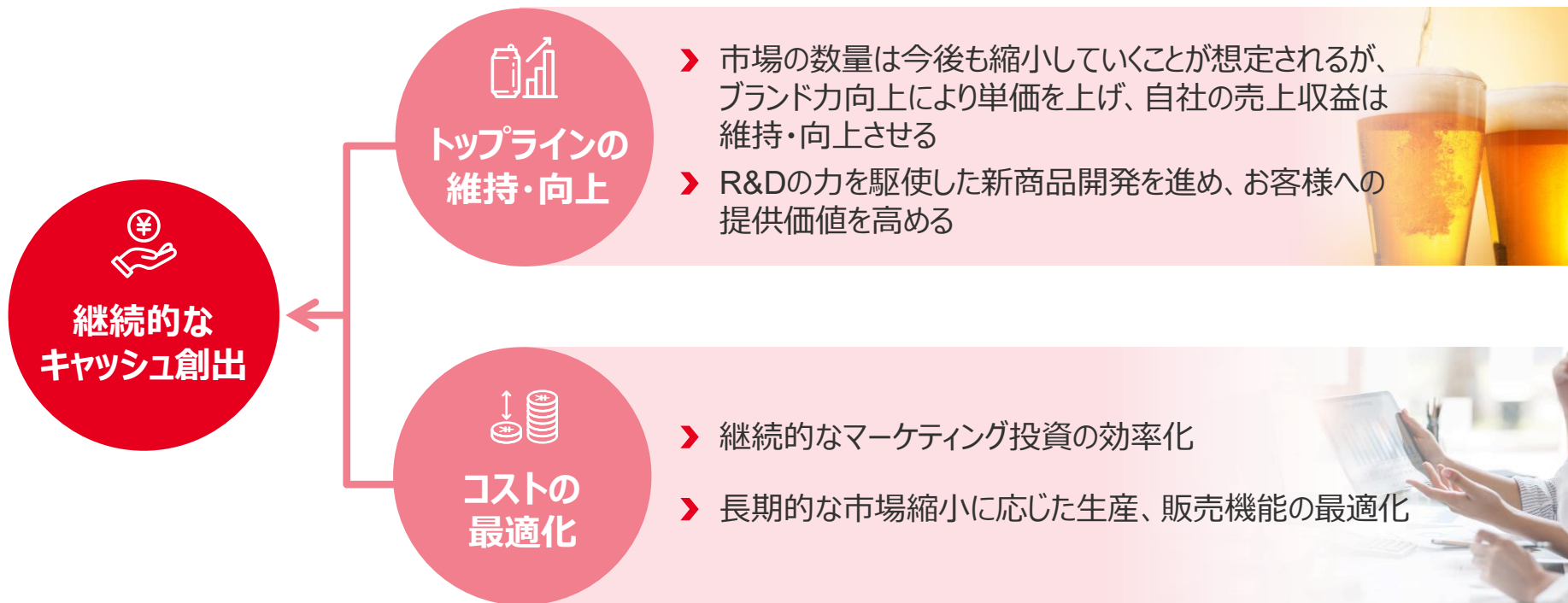
豪州で2027年上市予定

シチコリン

2026年より順次上市予定



▶ 酒類事業が今後もキリングループの大きな収益の柱であり続けるための取り組みを継続する

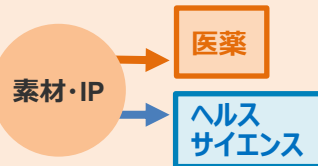


医薬とヘルスサイエンスの価値向上

ヘルスサイエンス事業の成長・競争力強化に必要な事業



R&Dの過程で生まれる
素材や知的財産は
医薬とヘルスサイエンス
の両事業で活用可能



協和キリンの技術を
ヘルスサイエンスへ応用

例) 薬効最適化技術の
サプリメントへの応用



医薬とヘルスサイエンス
の中間領域での協働

例) 病後のアピランスケアの
取り組み



両社間での
相互の人財交流

例) ヘルスサイエンス研究所で
協和キリンの社員が活躍

協和キリンの新薬開発力

直近の開発進捗は満足できる水準にはない

KYOWA KIRIN

協和キリンの
抗体医薬の強み

Orchard
therapeutics

Orchardの細胞遺伝子
治療研究の強み

×



AIやデータサイエンスによる創薬手法の進化

開始したばかりの上記取り組みを加速することで、
創薬の力を飛躍的に伸ばしていく

保有する割合については今後も継続的に議論をする一方で
グループで医薬事業を保有する意義をこれまで以上に高めていく

- 買収により膨らんだBSは、常に最適な形に見直していく。追加的な株主還元も含めて総合的に判断する

2019年～

ヘルスサイエンス
事業の立ち上げ

2023-2024年

APACにおける
強い事業基盤の獲得

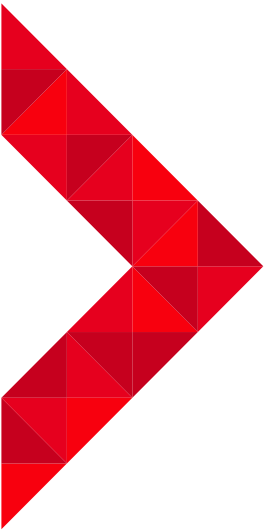
BLACKMORES[®]
FANCL

アセットの獲得による
BSの拡大

今後：買収により大きくなったBSを最適化

- すでにノンコア事業はないが、コア事業の中にも優先順位は存在する
- 今後の環境変化も考慮し、優先順位の低い事業は売却する
- 売却が実現した際には、得たキャッシュの一部を自己株式取得に活用する*

* 今後の投資に向けた財務余力と株主還元のバランスを考慮して決定する



2025年 第2四半期決算概要

Joy brings us together



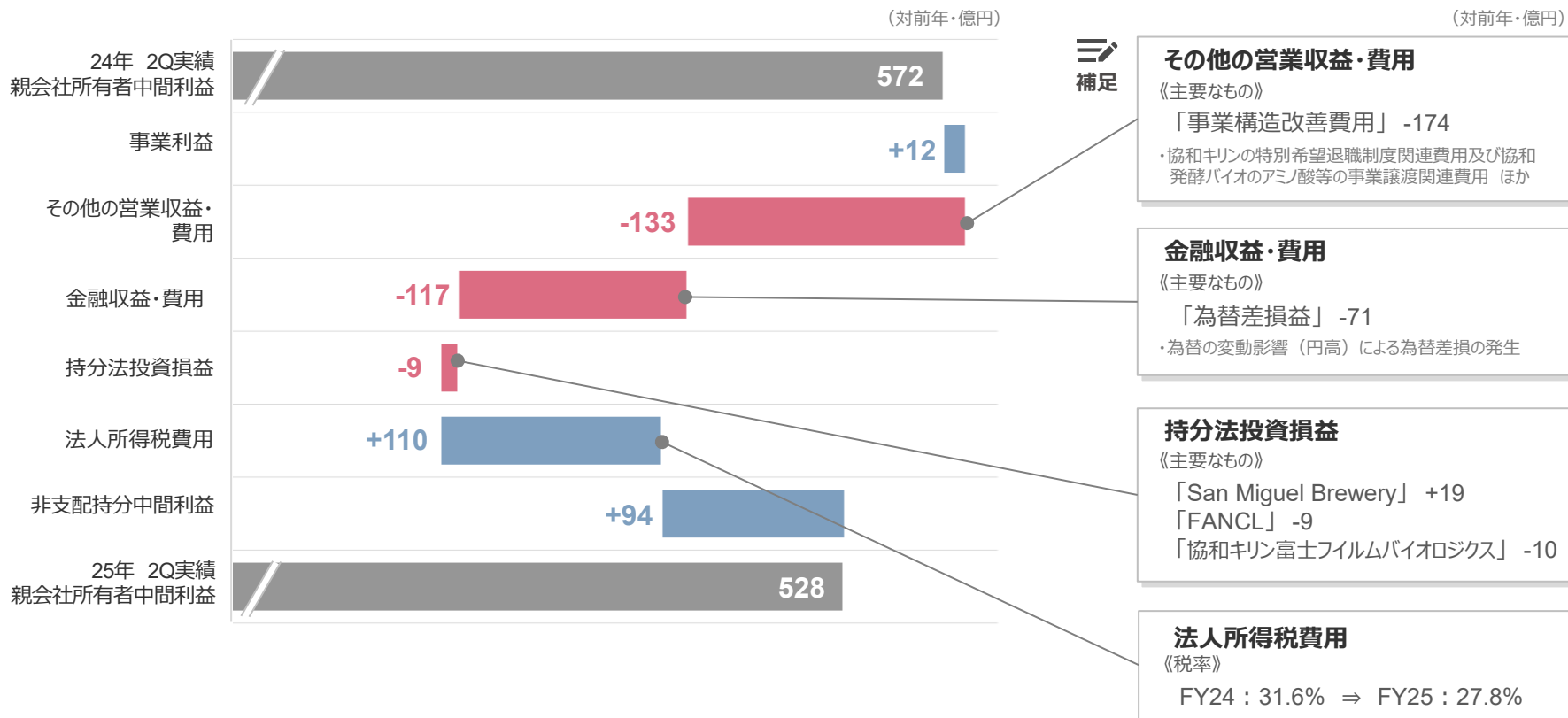
2025年度 2Q実績サマリー

(億円)	25年2Q 実績	24年2Q 実績	増減	%
売上収益	11,363	10,958	405	3.7%
事業利益 *	942	931	12	1.3%
税引前中間利益	838	1,085	-248	-22.8%
親会社の所有者に帰属する 中間利益	528	572	-44	-7.7%
期中平均株式数 (百万株)	810	809	0	0.0%
EPS (円)	65	71	-6	-7.7%

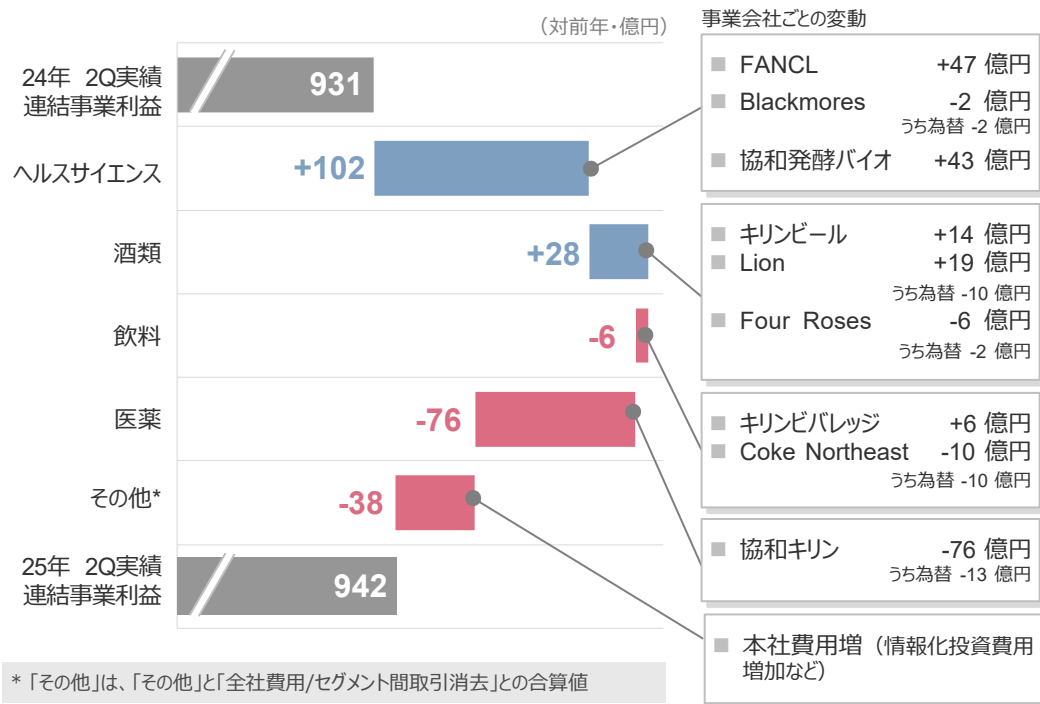
- 協和キリンの特別希望退職制度による事業構造改善費用の発生や円高方向への為替相場の変動影響により、税引前中間利益と親会社所有者中間利益は前年を下回って推移
- EPSは、親会社所有者中間利益の減少により対前年減で推移
- 他方で、事業利益は、各事業の順調な進捗とFANCLの年初からの寄与により、計画・前年を上回って推移

* 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出。

2025年度 2Q実績：親会社の所有者に帰属する中間利益増減



2025年度 2Q実績：各セグメントの進捗／ポイント



事業利益 為替感応度

USD (米ドル) +8億円/1円安

AUD (豪ドル) +4億円/1円安

米国関税の影響

➢ 1Qの状況から大きな変化はない

➢ グループの事業に与える影響は大きくないと見込む

ポイント

ヘルスサイエンス事業

- FANCLは値上げをした国内サプリメントや「アテニア」好調継続等、全体で堅調に推移
- 協和発酵バイオの氨基酸事業における仮需による業績改善が継続
- アミノ酸等の事業譲渡が3Q期首の7/1に完了

酒類事業

- 国内では4月の価格改定後の数量減が想定以上であった
- 豪州市場は依然として縮小傾向にあるものの、減少幅は過去数年と比べて緩やかである

医薬事業

- KHK4083のPh3試験は順調に進捗。研究開発費増加や昨年のAPAC事業再編に伴う売上減少などに伴い、減益

2025年度 通期業績見通し：全体とセグメントのポイント

- 第2四半期における通期業績予想の修正はない
- 協和キリンの特別希望退職制度関連費用やアミノ酸等の事業譲渡に伴う一時費用、為替差損など、事業利益より下に減益要因はあるが、協和発酵バイオの事業利益上振れや、その他のリカバリー策等を講ずることで、期初計画のEPS185円の達成を目指す

セグメントの見通しのポイント



ヘルスサイエンス事業

- **協和発酵バイオ**：アミノ酸の事業譲渡の早期完了により赤字幅は縮小するものの、赤字は継続する見込み
- **FANCL・Blackmores**：足元の販売動向から売上未達リスクがあるものの、事業利益は年初計画の達成を目指す



酒類事業・飲料事業

- **キリンビール**：4月価格改定後の想定以上の数量減により若干の売上未達リスクがあるが、コスト最適化により事業利益は達成を見込む
- **Lion**：北米クラフトは米国の景気後退によるビール消費の縮小の影響を受けて売上収益・事業利益ともに未達のリスクはあるが、消費が底を打ちつつある豪州でカバーをして年初計画の達成を見込む
- **キリンビバレッジ・Coke Northeast**：いずれも若干の売上未達リスクがあるが、事業利益は達成を見込む



医薬事業

- **協和キリン**：2Qまでは研究開発費の計上が増加したことで減益となったものの計画通りに進捗し、通期も年初計画通りの着地を見込む

- ▶ 昨年11月に発表した事業譲渡を前倒しで完了。残る事業も早期に構造改革の取り組みを進めていく
- ▶ 今後はスペシャリティ事業に注力するが、全体の事業規模は大幅に縮小。2027年に黒字化を目指す

アミノ酸事業等の事業譲渡完了

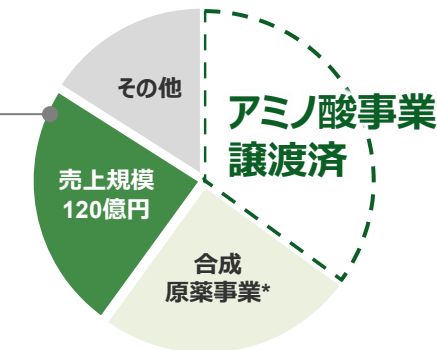
- 7月1日に中国の大手バイオ産業会社への事業譲渡完了
- 譲渡前倒しにより、事業利益の赤字額は減少見込み
- 事業譲渡に伴う一時コスト(契約にかかる弁護士費用や退職費用等)を計上

早期に構造改革に注力する体制が整った

今後の事業規模

- 今後はシチコリン等のスペシャリティ事業に注力
- 全体の事業規模は大幅に縮小

協和発酵バイオの売上収益構成



* 協和ファーマケミカルによる合成原薬事業等。
主要な商品はトラネキサム酸とプロスタグランジン。

- 医薬用アミノ酸製品（譲渡対象外で終売予定）に供給責任があり、2026年まで国内の製造体制の維持が必要
- このことから、2026年までは人件費を中心とした固定費の負担が重く、赤字が継続する
- 2026年中に、抜本的な固定費削減を終え、2027年には黒字化を達成する

- 国内では、ブランドファミリーのブランド力に寄与するマーケティング活動により、一番搾りブランドが市場をアウトパフォーム

一番搾りブランド計

1-6月 対前年 + **5** %



- 豪州では、健康ニーズを捉えた商品群の好調さもあり、数量が市場をアウトパフォームし対前年もプラスで進捗
- 単価も過去から継続的に上げられており豪州では増収



各ブランドから発売した
ULTRAシリーズが好調

Lion豪州 平均販売単価
前年同期比% **



Environment

ペットボトル以外のPET樹脂などから
飲料用ペットボトルへ再生

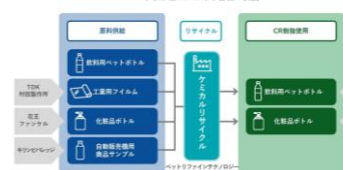
- ▶ 業界を超えた9社での連携により、飲料用ペットボトルと非食品用途PET*を原料とするケミカルリサイクルにより各種ペットボトルへリサイクルする取り組みを開始

* ポリエチレンテレフタレート略。



詳細はこちら

本取り組みにおける各社の役割



「氷結®mottainaiプロジェクト」が企業横断プロジェクトへと進化

- ▶ キリンビールは、オイシックス・ラ・大地社とビビッドガーデン社と協働して果実のフードロス削減・果実農家支援を目指す取り組みを開始



詳細はこちら

スリランカ紅茶農園の社会的・環境的インパクト評価に向けた
共同研究を開始

- ▶ キリンホールディングスは、東京大学と共同して、スリランカ紅茶農園従業員のウェルビーイングとネイチャー・ポジティブに向けた取り組みの社会的・環境的インパクト評価に向けた研究を開始



詳細はこちら

キリングroupで「子どもの健康」
をサポートする「キリンキッズケア」
プロジェクト始動

- ▶ 未来を担う子どもたちにフォーカスをして、子どもの健やかな毎日をサポートする「キリンキッズケア」を始動



詳細はこちら

外部評価

CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」で
7年連続で最高評価を獲得

- ▶ CDPの「サプライヤーエンゲージメント評価」で、「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選出



詳細はこちら

開示媒体

「統合レポート2025」発行

- ▶ 4事業を持つ多様で盤石な事業ポートフォリオ経営で、持続的な成長に向けて価値創造に取り組む姿を表現



詳細はこちら

「環境報告書2025」発行

- ▶ ISSB（国際サステナビリティ基準審議会）基準を取り入れ統合的な環境経営情報を開示



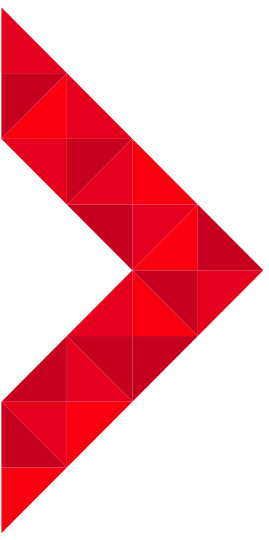
詳細はこちら

豪州ニューサウスウェールズ州の
洪水復旧を応援

- ▶ LionはTooheysブランドにおいて、豪州ニューサウスウェールズ州で発生した洪水からの復旧を応援するためドネーションを実施

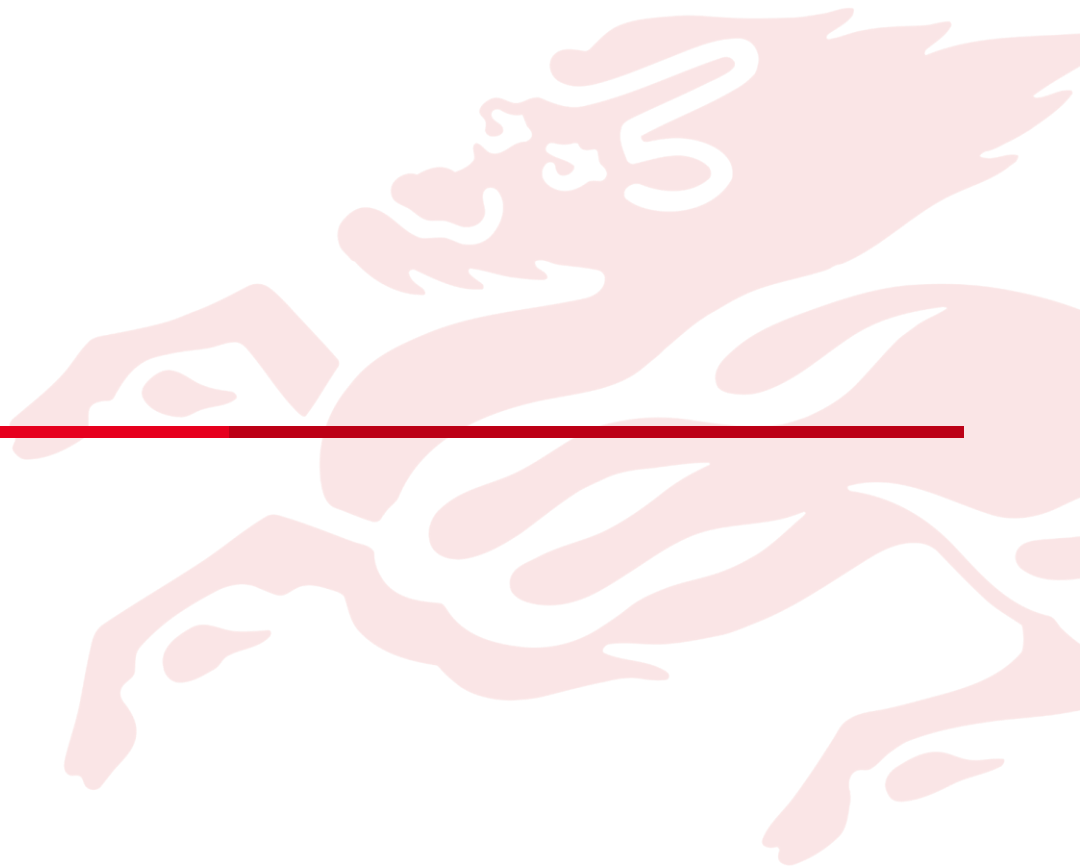


詳細はこちら



資料編

Joy brings us together



2025年度 2Q実績：セグメント別 売上収益

(億円)		2025年2Q実績	2024年2Q実績	増減	%
連結 売上収益		11,363	10,958	405	3.7%
酒類	麒麟ビール	4,926	5,125	-199	-3.9%
	Lion	3,014	3,103	-89	-2.9%
	うち豪州・NZ	1,312	1,433	-121	-8.5%
	うち北米クラフト他	870	952	-82	-8.6%
	Four Roses	442	481	-40	-8.3%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	122	125	-2	-1.8%
		478	464	14	3.0%
飲料		2,718	2,700	18	0.7%
	麒麟ビバレッジ	1,253	1,237	16	1.3%
	Coke Northeast	1,423	1,417	6	0.4%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	42	46	-4	-8.5%
医薬		2,305	2,328	-23	-1.0%
	協和麒麟	2,307	2,330	-23	-1.0%
	セグメント間取引消去	-2	-1	-0	—
ヘルスサイエンス		1,272	696	577	82.9%
	FANCL	544	—	544	—
	Blackmores	329	334	-4	-1.3%
	協和発酵バイオ	299	254	45	17.8%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	100	108	-8	-7.4%
その他		141	109	33	30.0%

2025年度 2Q実績：セグメント別 事業利益

(億円)		2025年2Q実績	2024年2Q実績	増減	%
連結 事業利益		942	931	12	1.3%
酒類	麒麟ビール	532	503	28	5.7%
	Lion	318	304	14	4.5%
	うち豪州・NZ	126	108	19	17.2%
	うち北米クラフト他	86	64	22	34.7%
	Four Roses	40	44	-4	-8.5%
	その他	49	55	-6	-11.1%
		39	36	2	6.7%
飲料		295	301	-6	-2.0%
	麒麟ビバレッジ	75	69	6	8.2%
	Coke Northeast	215	224	-10	-4.2%
	その他	6	8	-2	-24.9%
医薬		335	411	-76	-18.4%
	協和麒麟	335	411	-76	-18.4%
ヘルスサイエンス		86	-16	102	—
	FANCL	47	—	47	—
	Blackmores	29	31	-2	-7.6%
	協和発酵バイオ	12	-31	43	—
	その他	-2	-16	14	—
その他		-6	-3	-3	—
全社費用・セグメント間取引消去		-300	-265	-35	—

(億円)	25年 2Q実績*	[参考]	25年2Q 実績	24年2Q 実績	%
売上収益**	544	売上収益**	544	521	4.5%
化粧品(スキンケア)	304	化粧品 (スキンケア)	304	292	4.2%
サプリメント	209	サプリメント	209	198	5.1%
事業利益*** [事業利益率]	47 8.7%				

[参考]	25年 2Q実績 地域別金額 対前年増減	%
	国内	1%
	海外	52%

* FANCLの連結取り込み開始は24年4Qのため、1Qから3Qまでの前年実績記載はない

** その他事業を含む

*** PPA(Purchase Price Allocation)による無形資産等の償却費を含む

売上
収益
(参考)

化粧品(スキンケア)事業：

▶「アテニア」好調継続や、海外で前年から後ろ倒しした分の出荷があったことにより、全体として増収となった

サプリメント事業：

▶ 国内は前年に実施した大型施策の反動影響は残るが、4月に実施した値上げや海外におけるセルアウトが好調に推移し、全体として増収となった

事業
利益
(参考)

▶ 増収に伴う粗利の増加に加え、広告販促費の減少により増益となった

※キリン連結取込前(日本基準・無形資産償却前)

トピック

▶ 4月上市の抗老化サプリ「ウェルエイジプレミアム」は、計画超過により出荷停止となっているが、3Qに販売を再開予定

豪ドルベース (million AUD)	25年2Q実績	24年2Q実績	増減	%
売上収益*	352	330	23	6.9%
豪州・NZ	158	147	11	7.5%
東南アジア・韓国	93	79	14	17.7%
中国	100	101	-1	-1.1%
事業利益** [事業利益率]	31 8.8%	31 9.4%	0	0.1%

* その他受託業務を含む合計 通期予想レート：95.00円(豪ドル)/25年2Q実績：93.52円(豪ドル)

** PPA による無形資産等の償却費を含む 24年2Q実績：101.27円(豪ドル)

売上
収益

▶ 豪州・東南アジアを中心に主要市場で増収を実現

- ・ 豪州・NZ：セット販売等の販促や新商品に下支えされ、昨年からの好調なモメンタムが継続
- ・ 東南アジア・韓国：マレーシア・インドネシアを筆頭に、引き続き複数の注力商品が好調に推移
- ・ 中国：輸出チャネルにおけるディストリビューターとの取組拡大は進捗しているものの、引き続き市場環境は厳しく、減収

事業
利益

▶ 増収を達成した一方で、成長投資のために積極的に販促費等を投下した結果、事業利益は前年並みの水準となった

(億円)	25年2Q実績	24年2Q実績	増減	%
売上収益	3,014	3,103	-89	-2.9%
ビール類計*	2,282	2,360	-77	-3.3%
RTD	526	523	4	0.7%
ノンアルコール飲料	42	46	-4	-9.1%
酒税抜売上収益	1,858	1,886	-28	-1.5%
事業利益	318	304	14	4.5%
[事業利益率]**	17.1%	16.1%		

* 2025年度よりカテゴリー開示は販売数量ベースから金額ベース（売上収益）の前年比へ変更

** 対酒税抜売上収益

24年2Q 事業利益 (億円)	304	主な内容
酒類等 限界利益減	-7	ビール類計 △45億 ビール類以外計 △11億 価格改定・品種構成差異等 49億
対前年増減 原材料費減	11	市況影響等
販売費減	13	マーケ費減等
その他費用増	-4	経費増 他
計	14	
25年2Q 事業利益	318	

(千KL)	25年2Q実績	24年2Q実績	増減 %	市場 (カテゴリー)
一番搾りブランド計	177	168	5.4%	±0%
一番搾り計	138	139	-0.7%	±0%
晴れ風	30	36	-16.3%	±0%
淡麗グリーンラベル	61	66	-7.6%	-8%***
本麒麟	74	86	-13.0%	-8%***
氷結ブランド計	137	140	-1.9%	3%

*** 発泡酒・新ジャンル（発泡酒②） 合算のエコノミーカテゴリー 前年比を記載

売上
収益

- ▶ 4月の価格改定以降、市場全体の販売数量が落ち込んだ影響もあり、減収となった
- ▶ 「一番搾りブランド計」は、4月に新発売した「一番搾りホワイトビール」が好調で、一番搾り製品内でのカニバリも想定より少なく、前年・市場を上回った

事業
利益

- ▶ 販売数量減により限界利益は減ったものの、市況影響による原材料費減や、マーケ費用の投下タイミングの影響もあり、増益となった

豪ドルベース (million AUD)	25年2Q実績	24年2Q実績	増減	%
売上収益	1,403	1,415	-12	-0.9%
うち豪州・NZ	931	940	-9	-1.0%
うち北米クラフト他	472	475	-3	-0.7%
事業利益 [事業利益率]	135 9.6%	107 7.5%	29	26.9%
うち豪州・NZ [事業利益率]	92 9.9%	63 6.7%	29	45.9%
うち北米クラフト他 [事業利益率]	43 9.1%	43 9.1%	-0	-0.9%

通期予想レート：95.00円(豪ドル) / 25年2Q実績：93.52円(豪ドル)
24年2Q実績：101.27円(豪ドル)

豪州・NZ事業利益増減 (million AUD)

24年2Q 事業利益	63
豪州・NZ 数量	1
その他*	28
25年2Q 事業利益	92

* 本社コストは、豪州・NZに含む

販売数量前年比

豪州・NZ・北米クラフト他合計	-0.8%
豪州のみ	1.3%

豪州・NZ

売上収益

- ▶ 豪州では「Hahn」及び「Stone&Wood」の販売が前年・市場を上回り好調に推移し増収となった
- ▶ 一方で、市場悪化に伴うNZの数量減が影響し、豪州・NZトータルで前年並みとなった

事業利益

- ▶ 豪州の数量増や各エリアでの単価増加による売上総利益増加に加え、構造改革に伴う固定費の削減、費用投下タイミングのズレもあり大幅増益となった

北米クラフト他

売上収益

- ▶ 「Voodoo Ranger」ブランドの堅調な販売により市場を上回ったものの、外部環境の悪化に伴う市場縮小の加速が影響し、前年並みとなった

事業利益

- ▶ 数量減があったものの販売状況を加味したコスト削減や、費用の投下タイミングの影響もあり、前年並みとなった

(億円)		25年2Q実績	24年2Q実績	増減	%
売上収益		1,253	1,237	16	1.3%
ヘルスサイエンス飲料		198	165	33	19.7%
事業利益		75	69	6	8.2%
[事業利益率]		5.9%	5.6%		
販売数量 (万ケース)		25年2Q実績	24年2Q実績*	増減	%
ブランド別	午後の紅茶	2,234	2,365	-5.5%	
	生茶	1,231	1,498	-17.8%	

売上収益

▶ 価格改定に伴う単価上昇及びヘルスサイエンス飲料の売上拡大により、増収となった

事業利益

▶ 原材料費の高騰や販売数量の減少の影響を、価格改定の効果によって吸収し、増益となった

*プラズマ乳酸菌入り飲料等の一部商品について、「ヘルスサイエンス飲料」とする算出方法への変更に伴い、2024年2Qの数字を遡及修正しています。

USドルベース (million \$)		25年2Q実績	24年2Q実績	増減	%
売上収益		965	920	45	4.9%
事業利益		145	145	0	0.0%
[事業利益率]		15.1%	15.8%		
通期予想レート：145.00円（米ドル） / 25年2Q実績：147.48円(米ドル) 24年2Q実績：154.06円(米ドル)					

売上収益

▶ 営業活動による販売数量の維持、及び価格マネジメントによる単価上昇が寄与し、増収となった

事業利益

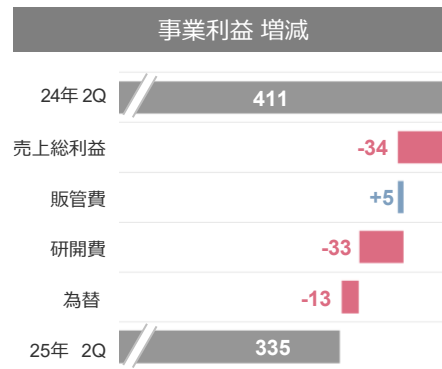
▶ 売上収益の増加に加え、オペレーションの効率化により原材料費等のコスト上昇の影響を相殺し、前年並みとなった

(億円)	25年2Q実績	24年2Q実績	増減	%
売上収益	2,307	2,330	-23	-1.0%
事業利益 [事業利益率]	335 14.5%	411 17.6%	-76	-18.4%

(億円)	Crysvita クリスピータ		Poteligeo ポテリジオ	
	25年2Q実績	24年2Q実績	25年2Q実績	24年2Q実績
日本	61	54	7	10
北米	640	587	160	141
EMEA	280	254	49	39
その他	17	13	1	1
合計	998	909	216	190

協和キリンの決算発表はこちら

<https://ir.kyowakirin.com/ja/library/earnings.html>



売上
収益

▶ 「Crysvita」と「Poteligeo」の販売が前年を上回り好調に推移したものの、為替のネガティブな影響や日本国内の薬価改定、並びに前年のAPAC事業再編に伴う売上減少の影響により、全体としてはやや減収となった。

事業
利益

▶ 売上収益の減少や研究開発費の計上が増加したことにより減益となったものの、計画通りに進捗

2025年7月31日現在

	開発中の疾患*1		承認予定年*2	開発ステータス	市場規模*3	患者さんの数*4
Rocatinlimab KHK4083/AMG 451	中等度から重症のアトピー性皮膚炎		2026/2027	P3（グローバル）	★★★★★	16M
	結節性痒疹		TBD	P3（グローバル）	★★★★	1M
	中等度から重症の喘息		TBD	P2（グローバル）	★★★★★	13.5M
Infigratinib KK8398	軟骨無形成症		TBD	P3（日本）準備中	★	6K
Ziftomenib	急性骨髄性白血病 (NPM1変異又はKMT2A再構成)	再発・難治（2L+）	2025 (単剤、米国)	P2（米・欧）	★★★★	20K
		1次治療（1L）	TBD	P1（米国）		
KHK4951 tivozanib 点眼	滲出型加齢黄斑変性		TBD	P2（日・米）	★★★★	3810K
	糖尿病黄斑浮腫		TBD	P2（日・米）	★★★★	3470K
OTL-203	Ⅱ型糖尿病（Hurler症候群）		2029/2030	ヒパタル試験*5 (米・欧)	★	生児出生の 10万人に1人*6
OTL-201	Ⅲ型糖尿病（Sanfilippo症候群A型）		TBD	POC試験*7	★	生児出生の 10万人に1人以下

*1 本資料の発表時点で開発中の疾患であり、最終的に規制当局から承認される適応症とは異なる可能性があります。*2 最初に承認が期待される年です。*3 「開発中の疾患」に対する全製品の総和を基に協和キリンが独自に推計した市場規模です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。★：500億円未満、★★：500億円以上・1000億円未満、★★★：1000億円以上・5000億円未満、★★★★：5000億円以上・1兆円未満、★★★★★：1兆円以上 *4協和キリン独自の推計値です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。*5 P3試験相当。*6 「10万人に1人」はMPS-I全体の値であり、Hurler症候群はこのうちの60%になります。*7 P1/2試験相当。

持分法適用関連会社 San Miguel Breweryの業績

- 販売数量は減少したものの、製造原価の低下や広告費の期ズレにより営業利益は増加
- 当期利益が増加した結果、配当金も増加となった

	2024年10月-2025年3月		前年同期
(百万ペソ)	実績	増減 %	実績
売上高*	78,439	2.7%	76,381
営業利益*	18,204	18.0%	15,425
営業利益率	23.2%	3.0%	20.2%
減価償却費及び償却費他*	3,979	17.1%	3,397
EBITDA (営業利益 + 減価償却費及び償却費他)	22,183	17.9%	18,822

* 現地開示ベース（キリンホールディングス 2025年度2Q決算への取り込み期間：2024年10月～2025年3月）

出所：San Miguel Brewery Inc. Financial Highlights, Quarterly Reports

持分法による連結取込み及びキリンホールディングス受取配当金

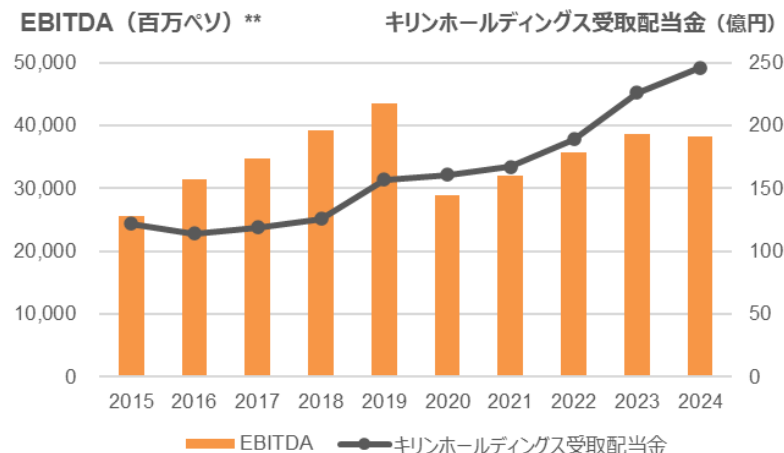
(億円)	25年2Q	24年2Q	増減 %
当期利益 (SMB)	362	330	9.7%
連結取込	175	157	12.1%
配当金 (億円)	134	120	12.2%
1株当たり配当金 (ペソ)	0.68	0.60	13.3%

為替レート：1ペソ = 2.65円（前年同期：2.66円）

（キリンホールディングス 2025年度決算への取り込み期間：2024年10月～2025年3月）

配当金についてはキャッシュインベースで計上

EBITDAと受取配当金の推移



- フィリピンの2025年GDP予測は約5%***
- 堅調な内需が成長を牽引し、2027年頃まで同程度の経済成長率で推移すると予測***
- San Miguel Breweryのフィリピンでの市場シェアは9割を超える

財政状態計算書 キャッシュ・フロー計算書

(億円)	25年2Q 実績	24年4Q 実績	増減
資産合計	33,013	33,542	-529
資本合計	14,073	15,337	-1,265
負債合計	18,940	18,204	736
ROIC*	—	4.1	—
グロスDEレシオ	0.91	0.73	—
ネットDebt／平準化EBITDA**	—	2.39	—
PBR(株価純資産倍率)***	1.5	1.4	—

ROIC・ネットDebt／平準化EBITDAは4Qのみ開示

(億円)	25年2Q 実績	24年2Q 実績	増減
営業活動CF	673	1,087	-415
投資活動CF	-616	-1,160	545
フリーCF	57	-73	130
財務活動CF	358	-216	574

* 利払前税引後利益／(有利子負債の期首期末平均＋資本合計の期首期末平均) にて算出

** 平準化EBITDA＝事業利益＋減価償却費及び償却費(注)＋持分法適用会社からの受取配当金にて算出
(注) 減価償却費及び償却費は使用権資産の償却費を除いております。

*** 期末株価終値／(親会社の所有者に帰属する持分／期末発行済株式数(自己株式除く)) にて算出



財政状態計算書

▶ **資産合計**：前年度末が休日であったこと等による営業債権及びその他の債権の減少等により、前年度末に比べ529億円減少して3兆3,013億円となりました。

▶ **資本合計**：FANCLの追加取得に伴う非支配持分の減少及び為替変動の影響等によるその他の資本の構成要素の減少等により、前年度末に比べ1,265億円減少して1兆4,073億円となりました。

▶ **負債合計**：前年度末が休日であったこと等による営業債務及びその他の債務の減少があった一方で、新規発行によるコマーシャルペーパーや社債の増加等により、前年度末に比べ736億円増加して1兆8,940億円となりました。

▶ **グロスDEレシオ**：有利子負債が19%増加したことに加え、自己資本が5%減少したことで、前年度末から増加しました。

▶ **PBR**：期末株価終値が1%低下した一方で、親会社の所有者に帰属する持分も5%減少したことから、前年度末から増加しました。

キャッシュ・フロー計算書

▶ **営業活動CF**：営業活動による資金の収入は前年同期に比べ415億円減少の673億円となりました。運転資金の流出は300億円増加、法人所得税の支払額は68億円減少しました。

▶ **投資活動CF**：投資活動による資金の支出は前年同期に比べ545億円減少の616億円となりました。事業譲渡により169億円の収入がありました。一方、有形固定資産及び無形資産の取得については前年同期に比べ38億円増加の722億円を支出、また、預託金の預入により77億円を支出しました。

▶ **財務活動CF**：財務活動による資金の収支は358億円の収入(前年同期は216億円の支出)となりました。コマーシャル・ペーパーの増加により1,080億円、社債の発行により1,000億円の収入がありました。一方、非支配持分からの子会社持分取得により816億円、配当金の支払により357億円、社債の償還により250億円、長期借入金の返済により200億円の支出がありました。

➤ キリンホールディングス IR情報



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/>

➤ キリンホールディングス Investor's Guide*



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/guide/>

➤ キリンホールディングス 統合レポート



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/library/integrated/>

* 「Investor's Guide」は、投資家様向けにキリングループの経営計画、事業概要や各事業の保有意義などをまとめた資料です。

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together